



漁業家。金輪式漁法発明者。御荘組内海浦ノ内網代浦(現、愛南町)出身。長兄に子がなかったため明治3(1870)年、養子となって家督を相続した。当時、大敷網(定置網の一種)3帖と鰯網(船びき網)2帖による漁業を主体として、小作料と自作収入による農業によって生活を維持していた。漁業で最も力を注いだのが大敷網であり、盛漁期には数千尾の鮪や鰹などで活況を呈していた。盛三郎は、一時に大豊漁となる漁獲物の有効保存について研究し、明治22(1889)年、鮪などの塩蔵や燻製を行うため、網代に大加工場・魚類製造家屋を建設した。これは当時としては全国でも有数の大規模なものといわれた。

先見の明があった盛三郎は、今後の漁業は沖取漁業をおいてほかにはないものと考え、明治20(1887)年からその研究を開始して金輪式と呼ばれる巻網漁法の一種を開発、そして同22(1888)

年8月23日付で県から操業の許可を得た。この漁法は、明治14(1881)年に農商務省技師が米国から導入した米式巾着網の長所をとり入れ、これに独特の改良を加えて完成したもので、本県独自の技術開発によるものとして注目された。

また、漁業以外でも銀行の設立、運輸、水産物流通機構などの改善に努めたほか、村会、郡会、県会の各議員としても地元の漁業と経済の発展に力を尽くした。

## 略歴

- |                  |                              |
|------------------|------------------------------|
| 天保14(1843)年11月3日 | 御荘組内海浦ノ内網代浦に生まれる。            |
| 明治3(1870)年       | 長兄の養子となって家督を相続               |
| 明治10(1877)年      | 特設愛媛県会の議員に当選                 |
| 明治16(1883)年      | 御荘為替店を設立                     |
|                  | 南北宇和郡魚談会(盛三郎を含む6人が発起)が組織される。 |
| 明治22(1889)年8月23日 | 県より金輪式漁法の操業が認可される。           |
|                  | 網代に漁獲した鮪などの大加工場・魚類製造家屋を建設    |
| 明治23(1890)年4月    | 御荘為替店発展させて浦和銀行を設立            |
| 明治25(1892)年10月6日 | 50歳で永眠                       |

(写真提供：愛南町教育委員会)

### 〈関連図書〉

- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年
  - ・犬伏武彦『南海僻隅の痴蛙なれど 浦和盛三郎伝』 創風社出版 1992年
  - ・『発掘えひめ人ー近代を拓いた101人ー』 愛媛新聞社 2002年
  - ・内海村史編纂委員会『内海村史』 内海村 2004年
- 〈ゆかりのある場所〉…(P281, 69)